

住民協ひろば

令和7年度校区総合防災訓練特集号

住民協ひろば・令和8年1月号は、令和7年11月30日に実施された、久小校区総合防災訓練（校区避難所運営訓練＋市防災訓練）の記録として、特集号といたします。

- 目次： 1. 令和7年度校区総合防災訓練の概要：小林寿志 2. 避難者受付・登録：担当自治会
3. トイレ（全般・寸劇）：龍村敦子 4. マンホールトイレ設置：担当自治会
5. 照明：担当自治会 6. 炊き出し：担当自治会
7. 地域の安否確認訓練：各地域担当者 8. 地域と本部の無線による情報連絡：鈴木友行
9. 地区防災拠点設置・運営：堀田昌希 ⑩. 地域情報発信（スマホによる発信）：防災課
⑪. アンケート纏め：龍村敦子 12. 自由意見

注：○数字の項の一部は、本誌2月号に連載で掲載いたします。文中「参考」とある項は編集者の追記です。

1.11・30 校区総合防災訓練（避難所運営訓練＋市防災訓練）のまとめ 訓練の全体構成

令和7年11月30日(日)久木中学校で防災訓練が実施された。参加者一同体育館に集合し開始時刻午前10時に訓練開始宣言を行った後、桐ヶ谷逗子市長よりご挨拶を頂き訓練がスタートした。

今回の防災訓練の大きなテーマとして「災害時のトイレ問題」を提唱し参加者に一緒に考えてもらう企画とした。最初に

「寸劇で知る困りごと解決コーナー」で災害時のトイレが大変な問題になることを、劇を通して参加者に訴えた。逗子市防災訓練としてもテーマに沿ってマンホールトイレ取り扱い訓練、地区防災拠点設置情報連携訓練、災害時の地域情報発信訓練を実施した。

避難所運営訓練としては午前9時より山の根地区で安否確認訓練、各地区より無線機での情報連携訓練を実施した。午前10時40分に寸劇が終了した後参加者全員でマンホールトイレ設置訓練を実施した。防災安全課より取り扱いの説明を頂き参加者も熱心に対応し、災害時のトイレが大きな課題となることが認識できて良かった。夜間に、マンホールトイレまでの通路を明るくする投光器設置訓練では、今回発電機では無くポータブル蓄電池を使用し、性能確認を行った。避難者の食糧確保として非常食炊き出し訓練も同時開催され、避難者受付訓練では参加者からアンケートも記入いただき12時に訓練は終了した。

午後2時より訓練の反省会を開き、やはり災害時のトイレ問題については、携帯トイレや簡易トイレの備蓄を家庭や避難所でも進めていくことが重要で、今後の課題として検討していくこととした。

今回の防災訓練にご協力頂きました多くの皆様に感謝申し上げます。日本各地で地震が発生している現在、災害に備えていくことの大切さを今後も皆さんと進めていきたいと思ひます。

2025年（R7）参加者（受付で記帳した人数）

地区・年代	久木	山の根	ハイランド	市内他地区	市外	総計
80 以上	7	10	1	沼間 2	金沢区 1	18
70 代	18	10	5	桜山 4		33
60 代	7	12		逗子 3		19
20～50 代	9	22				31
0～10 代		1				1
計	41	55	6	9	1	112

コメント（龍村）： 今年年代別を表記しました。訓練参加年代で山の根地区は20代～60代（特に20代～50代）が飛びぬけて多いのが特徴です。理由はわかりません。山の根地区からは距離のある中学校での開催場所にもかかわらず、これだけ集まったことは喜んでよいと思ひます。 注・市内市外参加者の年齢は記載していません。

小林 寿志（避難所準備委員会 代表）



2. 避難者受付・登録

避難所訓練に参加して

2025 年 11 月 30 日に実施された久木小学校区避難所設置運営訓練に受付係として参加した際の行動記録及び雑感を記述したものである。尚、業務の関係で一部のイベントのみに参加した状況であった。

2 受付係としての行動記録

事前の GP、班毎の安否確認を 0830 時から実施、0900 時過ぎに GP 長に状況を報告して 0930 時の受付準備に間に合うように久木中学校に向かった。

(1) 0925 時位 久木中学校に到着

→他受付係 3 名は既に到着しており、受付準備は完了かつ逐次、受付業務を開始していた。

(2) 0930 時位～1100 時位 受付業務を実施

→受付業務として下記を実施した。

「参加者の記録」、「アンケート並びに非常食券の配布」及び「市役所実施の WEB アンケート回答の促進」

→1000 時の体育館内イベント開始直前に参加者が殺到した。また、同イベント開始後も参加者の到着が散見された。

(3) 1100 時～1130 時位 アンケート回収及び撤収

→撤収業務として下記を実施した。

「参加者の記録用紙及びアンケートの集積」及び「机椅子等備品の撤収」

→体育館内イベント終了後、受付場所に籠を設置してアンケートを回収した。体育館内の参加者の退出状況を確認して、撤収した。

以上が受付業務の流れでした。事後、マンホールトイレの設置訓練に参加しました。

3 雑感

(1) 準備について

ア 机椅子の備品は中学校所有物を使用できたので特に問題はなかった。

イ アンケート回収のための備品が用意されていなかった。(現地で籠を探して対応)

(2) 受付業務について

ア 0930 時受付開始ではあったが、早くから到着す

山の根自治会 中瀬 裕文(班長)

る参加者が散見された。(現地で臨機に対応、今回の計画より早く受付係の集合が必要と思料)

イ 地区毎に 1 か所の参加者の記録用紙を設置したが、山の根地区及び久木地区は参加者多かったために待ち行列が発生した。

(現地で用紙設置を増加して対応)

ウ 参加者がアンケート作成するための筆記具及び場所が無かったために受付場所で作成

いただいた。(筆記具の準備及びアンケート記載場所の設置が必要と思料)

エ 受付において、市役所実施の WEB アンケート及び紙アンケートに関する参加者からの問い合わせが受付でされることが散見された。(臨機に対応、市役所様での人員配置が必要と思料)

(3) マンホールトイレの設置訓練について

ア 必要資材の規模が大かつ運営のための操作・手順があることを認識できた。

イ 市役所担当者様の明快な展示説明は非常に良かった。実際に避難者のみで実施するにはかなり大掛かりな作業であることも認識できた。(特に排水・貯水等のトイレ運用に関する簡易な説明ツールの現地設置が必要と思料)

4 総括

100 名を超える参加者があり、避難所訓練は活況でした。参加者間の会話で避難時のトイレに関して今まで気にしていなかった、本訓練を通じてトイレに関する意識が高まったとの声を聴き、大変に印象に残りました。訓練内容の設定が非常に良かった証左と認識できました。

本訓練の企画、運営等に係った皆様のご苦勞に感謝いたします。

注：井上様・渡邊様寄稿は、12. 自由意見欄に掲載



3. トイレ：全般・寸劇

2025 年(R7)避難所訓練プログラム 「災害時のトイレ問題」から思うこと

山の根自治会 龍村 敦子(会長)

年 1 回の市の防災訓練と同日程で開催する避難所訓練が終了すると間髪入れずに次の年に行う避難所訓練の準備に入ります。何十年と続いている避難所訓練ですが、全国で多発する災害を知るにつけ避難所準備委員会もただただ避難所の箱を作る訓練だけ考える委員会ではなくなってきています。地区防災拠点の設置が災害時の当たり前となればその情報共有の方法を詰める必要はありません。久小校区住民協減災部会との共通意識と協働作業も当然はじまります。さらに身近な各自治会町内会での避難行動をはじめとする防災意識への啓発方法なども避難所運営とは別物ではありません

ん。多方面とのかかわりを密にする巨大な組織避難所準備委員会になっていかなければならないように個人として思うのですが、はてさてどうでしょうか。

さて、やっと本題です。様々な災害に向き合う時勢の中で、今年度は「災害時のトイレ問題」をクローズアップしてきた準備委員会でした。避難所生活は「出す・食べる・寝る」が平常時の生活のように当たり前で安心してできることを理想とするなら、ライフラインがすべてストップしたなかでの排泄がどんなに困難かわからないものになるか、想像できますか？

当日の訓練ではまず、参加者に災害時トイレ問題の

危機感をもってもらうこと、そのために目に見える形で困難さを伝えようと寸劇で試みました。1 場は家庭におきるトイレ問題。焦点は「下水道に汚物を流してよいと市が判断するまではトイレから汚物を流してはいけないこと。」2 場は避難所でおきるトイレ問題。避難者 50 人に 1 個のトイレが必要とされています。各学

校には 5 個のマンホールトイレが設置できますが、避難者の人数によっては 5 個では足りないことを寸劇で提示しました。

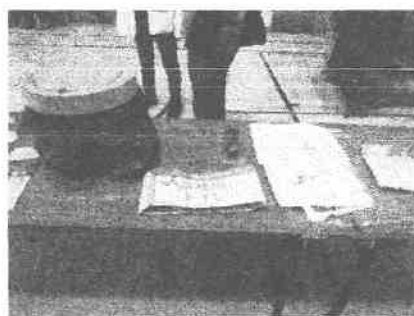
準備委員会が出た課題の一つに汚物の処理方法がありました。その回答を防災安全課から寸劇内で次のようにいただきました。

市では約 17000 人分（5 回/日 × 3 日分）の携帯トイレの備蓄をしていますが、各自宅での携帯トイレを備蓄していただくことが重要です。また、避難所での携帯トイレのごみについては家庭と同じ使用方法で、本市が指定する可燃ごみ袋に入れてください。このごみ袋は、集積場所では臭いがもれないように、ふたのついたゴミバケツや密閉性の高い箱などの容器に保管してください。具体的な保管容器の指定については、市で検討をしています。避難所からは、市の収集車で処理場まで運んで焼却処理します。

寸劇内でピースポート理事の大塩さんが本人役で登場し、珠洲市避難所でのトイレ事情を語る場面がありましたが、想像を絶する大惨事であることが理解できました。珠洲市避難所では学校のトイレを使用した話を受けて久木中学校河原林校長、小学校田中校長から校舎のトイレを被災者が使用することへの心配ごと

発表されました。

避難所準備委員会は住民・学校・市が連携し、地域防災を考える唯一の大変重要なコミュニティ組織です。その組織を存分に生かし地域住民みんなで力を合わせて防災に強い地域づくりにさらに邁進していきましょう。



写真の説明：左 2 枚は寸劇の場面、左の写真の右端の女性が大塩さん。右の写真は携帯トイレの展示。

参考：避難所トイレに係る数字（避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン（内閣府）等による）

既設のトイレが使えない場合：断水時、下水道が使用不可或いは防災直後等で可否不明の場合

使用可能なトイレ：マンホールトイレ、携帯トイレ（施設の既存のトイレを携帯トイレが使えるようにする）

必要数：避難者 50 人に個室トイレ 1 個

男女比率：1 対 3

用便回数：1 人 1 日 5 回

排泄量：1 回当たり 0.2～0.4 L

避難者 1000 人の場合

必要トイレ数：20 個；女性用 15 個、男性 5 個

用便回数：1 日当たり 5000 回

必要携帯トイレ数：1 日当たり 3750 個

排泄量：2000 L（ドラム缶 5 本に相当）

便意を催す時間：3 時間以内に 40%（可及的速やかに設置が必要）

4. マンホールトイレ

避難所トイレ事情に接して

逗子ハイランド自治会 防災部長

久中で行われた避難所運営訓練でハイランド自治会の担当はマンホールトイレ設置訓練案内でした。まず体育館内で災害時のトイレの汚物処理問題の寸劇が行われ、続いて能登地震救援のボランティアさんが被災地のトイレ事情をお話しなさいました。困難で悲惨な内容があり、その深刻さを参加者が理解した直後に全員が屋外のマンホールトイレ設置場所に移動したので、マンホールトイレ設置には皆さんとても協力的で且つ興味を持って作業に参加し見守ってくれました。設置は参加者達が試行錯誤しつつ協力してトイレを組み立てていくと云う形になりまして、それはあたかも実際の避難者達がぶっつけ本番で行うトイレ設置を体

現するかのようでした。

避難所に来た避難者の多くがすぐに尿意や便意を催しますので、トイレの設置は一刻を争う最優先事項です。それは災害参加のボランティアさんが強くおっしゃられ、仮設トイレができてないと被災者は無理に水の流れなくなった建物のトイレを使用し続けてそのトイレが悲惨な状況になるとの事。そしてそれら既設トイレを利用した災害用トイレの設置もできなくなると云う非常に深刻な事態に陥ったそうです。

参加者達はこれを理解してマンホールトイレ構築を急ぐのですが、それでも 1 基を設置するのに小一時間近くかかりました。マンホールトイレはすぐには設置で

きないのですね。では、それまでの用便をどうするか？水の出なくなった建物トイレは絶対にそのまま使用させてはなりません。すぐに展開して使用できるトイレ袋と便座の準備、それとその使用を指導するトイレ番が避難所には絶対的に必要なだと痛感しました。その為には避難して来た人達の中でこの情報を共有し、誰かが建物トイレを使ってしまう前にトイレ袋使用の周知を徹底させねばなりません。最初に避難して来た一群からトイレの番人の選定は不可欠、さもないと、いくら避難所が災害準備をしていようと悲惨なトイレ事情が発生するのだと云う恐怖、とても貴重な情報が得られた今回の避難所運営訓練でありました。



写真の説明

左の写真：トイレをトイレ穴に合わせて組み立てる。
右の写真：トイレ穴の蓋を開けたところ。このトイレ穴が5個並ぶ。中央の写真：トイレに並んで貯水槽があり、適宜ポンプで汲み上げてトイレの下に繋がっている、排泄物の溜まった管を洗浄する。洗浄水は貯水槽の反対側にある廃水槽に貯留される。



5. 照明

トイレの照明

久木連合町内会

新倉 洋一（会長）

久木中学校体育館出入口からマンホールトイレ設置場所付近まで、約40mの間を通行のための照明器具を設置した。当初はいろいろな方法を考えてみた。第1に考えたのは発電機を段取りしてその電気を使用しライトを点灯させ通路を照らすようにした。しかし問題があるのに気づいた。それは夜中の間発電機を使用している間にガソリンがなくなった場合の対応に問題がある。第2の方法はソーラーパネルを使用して昼間電気をためその電気を夜間使用して通路の照明に利用する。ただ費用が高くなる。第3の方法は手持ちライトを数台段取りして体育館出入口の所に置いておき、利用者はそこから持っていき利用後元の位置に置いて

おく。この方法が一番シンプルで一番費用の掛からず簡単に段取りできる方法だと思います。



参考：手前の白線の中に5個のマンホールトイレが設置される。

奥に見えるのが避難所となる体育館。この間の通路に投光器が設置されている。停電の際は夜間は真っ暗な世界、夜間の懐中電灯は必須の携帯機材です。

6. 炊き出し

防災避難所訓練の炊き出し訓練を担当して

山の根親交会

河辺 寛（会長）

久木中学校において行われた防災避難所訓練の炊き出し訓練を、山の根親交会が担当をしました。当日に、中学校に設置されている市の防災倉庫からカセットコンロ、ガスボンベ、やかん及びハイランド自治会から提供いただいたアルファ米を運び出し、中学校体育館の渡り廊下に炊き出しコーナーを設定しました。各種アルファ米を防災訓練に参加した方に試食して頂く計画で、やかんに湯を沸かして準備をしました。避難所訓練のタイムテーブルでは、避難所におけるトイレ問題提起の寸劇、マンホールトイレ実演を経て、12時近くに防災訓練の参加者が炊き出しコーナーに回ってくる予定ですので、非常食の試食体験をするという計画は非常に良い案と思います。

トイレの実演時間がやや長くなり、実際に炊き出しコーナーに参加者が巡ってきたのは午後1時を過ぎたところになりました。皆さんは非常食には興味をお持ちの様で、どのような種類があるのか、どこで入手できるのかなどの質問が多く寄せられました。準備したアルファ米は1人一つですが81人の方にお渡ししするこ

とができました。

当初の計画の非常食を試食するということができたが、アルファ米のパッケージをすべての

人がそのままお持ち帰りになり、その場での食事体験をしていただくということはできませんでした。おそらく、時間が昼を過ぎて帰りを急がれたことと、試食をするためのテーブル、椅子の場所が無かった（立って食べざるをえない）ということが原因だと思います。

訓練のその場で炊き出しの試食体験を目的とするなら、事前の準備、スタッフの確保、予算が大変ですが、おにぎり、カレー、豚汁などを大鍋で調理をして、十分なテーブル、椅子の食事場所を提供すれば可能です。

今回、炊き出し訓練を担当して、本当に災害が発生して自治会が避難所で食事を提供するという事態が起これば、どのようなことができるかを改めて考えさせられる訓練でした。



7. 地域の安否確認・被害状況確認訓練

7-1. 山の根自治会 大塚 邦彦（防災部長）

次の方法で毎年実施している。

↑事前告示で訓練の周知を徹底。右は事前告示の1例。

↑全500世帯を32班に、地域別に班を3ブロックに集約。

↑地震発生後速やかに、基本的には班単位で班長が中心となり安否確認（併せて被害状況確認）を行う。その結果を3人のブロック長に報告、代表のブロック長が他のブロック長からの連絡を含めて、無線で（本部）地区防災拠点に報告する手順。

↑安否確認の方法は、基本形は9:00の地震発生直後に玄関先に出て、巡回してきた班長に連絡となっているが、各班の事情に応じて、手ぬぐいでのお知らせや色々な方法が採られる。

↑毎年の繰り返し訓練を経てようやく定着の兆しが見えるが、事前の周知を徹底し継続することが最も重要と認識する。

結果は下記

↑今回訓練の安否確認率は80%（340/426）となった。

↑自治会内の無線連絡は、9:10から5分間隔で各ブロックから統括（大塚）に報告、統括が状況を纏めて本部へ報告。

↑今回よりデジタル無線機を使用、機器の小型化・軽量・到達距離拡大・感度良好等、メリット大であった。

山の根自治会

地震発生 11月30日(日)9:00

全世帯

震度6強地震発生 津波なし

安否・安全確認訓練を行います

安否確認
基本形

9:00 自宅前 または 前の道路に出る
→ 近所で安否確認
→ 班長に連絡 → 班長はブロック長に連絡

安否確認
応用編

9:00 各班のやり方で実施する
① スマホライン ② ドアに貼るし(タオル) 他
→ 班長 確認 → ブロック長に連絡

ブロック長滞在場所

- 1 ブロック ハイム防災倉庫前(磯部)
- 2 ブロック 神社 1の鳥居前(雷)
- 3 ブロック 安食宅付近(大塚)

Web アンケート
回答を忘れずに

安否確認終了後久木中学校避難所設置新機に参加しましょう。寸劇があります。

写真の説明：

ブロック長代表が各ブロック長から受けた情報を集約して、本部（地区防災拠点）へ無線で連絡している状況である。



7-2. 久木連合町内会 新倉 洋一（会長）

今回は久木7丁目の町内会会員の安否確認を予定したのですが、役員及び会員の方々の年齢が高齢のため出

来ないということで、非常の残念なことですが中止としました。

7-3. 逗子ハイランド自治会 長嶋 啓（会長）

ハイランド自治会は103の組で構成されており、組長からは22の区長へ、さらに10名の常任区長へと情報伝達される仕組みとなっております。各エリアの安否確認も組長、区長から常任区長さんを経由して自治

会に届けられるのですが、今回は実施できませんでしたので、今後取り組むべき課題として認識しております。自治会から地区防災拠点への無線による連絡は支障なく実施できることを確認いたしました。

8. 地域と本部の無線による情報連絡

鈴木

友行（住民協 理事）

防災訓練において、情報連携訓練の一環として、住民協加入団体である山の根会、山の根自治会、山の根親交会、逗子ハイランド、久木連合町内会において行われました。

今年度は、久木中学校が防災訓練会場として行われ、訓練の目玉として避難所におけるトイレ問題に焦点を当て、寸劇を通して参加者にトイレ問題を考えていただく良い機会だったと思います。

無線機訓練においては、住民協本部を久木中学校体育館2階に設置して行いました。

アンテナ部分を窓の外に設置し無線交信を行いました。各自治会・町内会での無線交信は途切れることなく無線交信できておりました。前年の久木小学校での訓練

では1自治会が通信不可でしたが、今回は各地点とも感度良好でした。実際の災害時は、スマホの利用により被災状況が確認されるものと思います。

無線機は通信の一手段と考えるべきであり、通信距離は、カタログでは10キロとされていますが、実際には平地では5キロ程度、山や谷があれば更に短い距離となります。その他に無線のチャンネルは限られており、他者が使用していれば、必ず使用できるとは限りません。いずれにしてもいくつかの通信手段を確保しておくことに必要と思います。



課題としては、一部の人のみ無線操作ができるのではなく、だれでもできるように日ごろから操作ができるよう覚える必要があり、それには防災訓練のみでなくイ

ベント等に活用して無線操作に慣れることが大事となります。

9. 地区防災拠点設置

久木小学校地区防災拠点開設訓練に参加して

堀田 昌希（地区防災拠点班長・市福祉部次長）

地区防災拠点は、大規模な災害の発生に伴い、避難所となる小学校を地区防災拠点として指定し、被災情報等の収集及び伝達をすることにより、救援救護活動等を迅速かつ円滑に実施することを目的として開設されます。

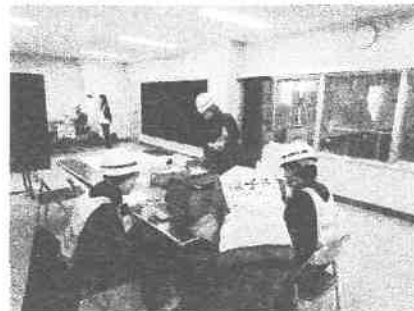
今回の久木小地区防災訓練の実施にあたり、市からは発災時を想定して事前に指定されている職員のうち、班長をはじめとする4名の班員が、地区防災拠点における情報伝達等の実地訓練に参加させていただきました。

特筆すべきは、久木小学校区住民自治協議会をはじめ避難所運営準備委員会、自主防災組織等の日頃から防災活動が非常に堅実であり、職員は情報伝達訓練に専念することができたことです。このことから、久木小地区防災拠点では通常の情報伝達訓練だけではなく、DXによる災害時の情報連携を効率化する取り組みとして、ZOOM のソリューションを活用した市災害対策本部との情報伝達訓練に新たに取り組むことができました。このソリューションを活用した情報共有では、瞬時かつ正確に現地の被災情報等が共有できることが大きな

利点です。実際の災害では大きな混乱が予想され、MCA 無線等の声だけによる伝達だけでは、間違いや情報伝達に遅延が発生する恐れがあります。

今回の訓練における検証を踏まえ、避難所における市災害対策本部からの情報の共有等、今後、より正確かつ円滑な情報連携ができる仕組みを整備してまいります。

また、地区防災拠点の業務としては、避難された方への生活支援等、地域の方々と連携・協働しての活動等があります。久木小地区防災拠点への配置が予定されている市職員は、発災時に円滑な避難支援等が行えるよう、平時から久木小学校区住民自治協議会等への活動に参加させていただく等、地域の皆様との信頼関係を構築するよう努めてまいります。



10. 地域情報発信（スマホによる発信）

逗子市 防災安全課

災害時の地域情報発信訓練前回の改善策として①～③を実施した。

①「アンケート」というネーミングだと、任意の回答で良いと思ってしまうとのことだったため、今年度は「災害時の地域情報発信訓練」というネーミングで広報をした。

②会場アナウンスによる説明等がなく、一般参加者に分かりづらかったのではないかという意見に対しては、受付にて、二次元コードの読み取りのお願いと直接説

明を行った。また、体育館入口すぐ（目のつきやすい場所）にも二次元コードの設置を行い受付を通過してしまった参加者にも再度目に止まるように工夫した。

③YouTube による災害時の地域情報発信訓練の必要性について伝える動画の作成を行い、受付で上映した。結果、今年度回答数は 174 件と回答数を増やすことができた。（昨年度 111 件）

注：地域から得られた情報のまとめは、本誌令和 8 年 2 月号に掲載します。

11. アンケートのまとめ

避難所で実施したアンケートのまとめ

龍村 敦子（住民協 理事）

注：アンケートで頂いたご意見（自由記述）については、12. 自由意見の中に掲載してあります。

アンケートの中の数字による資料は、本誌令和 8 年 2 月号に掲載します。

12. 自由意見

12-1. 令和 7 年久木小学校区地域防災訓練に思う事

石井 達郎（住民協 事務局長）

今年の久木小学校地域の防災訓練は 11 月 30 日に久木中学校で行われ、天候にも恵まれ 150 人程が参加し、例年よりも多くの参加者となった。今回はトイレ問題に焦点を当てて実施される事となった、大人 1 人のトイレ頻度は大小合わせ 1 日に 5 回程用を足すという統計上の数値が出ている。大きな地震発生時には水道が使えない可能性が高く、下水道インフラの整った逗

子では通常のトイレが使用不可能になる事が予想されトイレ対策が避難所でも、在宅避難者に於いても重要な課題となる。水洗が使えない状況でどの様な対応をとるのか、能登の災害支援を行った災ボラ担当者の話を聞いてもトイレ問題が大きな課題であるという、その様なトイレ状態で対応する為にはビニールの袋を被せ、そこに凝固剤を入れ固めた状況で消臭袋に入れ、固

まった無臭のものをその都度廃棄出来る状況にした上で、公共の処理施設に廃棄しなければならない。又、マンホールトイレを立ち上げ、それを使用するしかない。この最大課題とその対処方に付き具体的な対応について、寸劇を交えて参加者に分かり易く説明が行われ、災害時のトイレ問題とその対応について理解を深める良い避難訓練が出来たとも感じた。又、防災安全課によるマンホールトイレの設置と処理方法等についての説明が行われ、多くの人々が参加する事が出来た。関係者の問題意識と周到な準備の結果と敬意を表し度い。

但し今回はトイレ問題に重点をおいた為、避難者が多い自宅避難者の安否確認、被災状況をいち早く情報収集し避難本部に伝え全体の危機対応に備える地域防災本部としての機能が、一般参加者には見えづらいものとなったのは否めない。実際の各地域との無線を使った情報確認は地区防災拠点との情報のやり取りについては実施されていたものの地域全体の被災情報のやり取りの状況を参加者と共有する事がやや希薄になっていたものと思う。更なる工夫が望まれる。

12-2.実施内容について（要改善点）

- ・何をやるか進行のアナウンスがなかったように思いました。
- ・マンホールトイレの説明で、声がハンドスピーカーで

鈴木 友行（住民協 理事）

- は聞き取れない。
- ・役割分担が分からないと言う町内会の役員がいた。
- ・リーダーが引き連れて案内して欲しかった。

12-3.避難所訓練に参加して

井上 雄一（山の根自治会 班長 受付班として参加）

先ず最も印象的だったのは、寸劇の時の参加者の皆様の姿勢です。

見ていたのが受付からの後ろ姿でしたが、誰一人として他所を見ている方はおらず真剣に聴き入っていたように感じられました。

災害時の最重要事項として今年はテーマを絞りトイレ問題を取り上げたことも良かったと感じます。

私自身も在宅避難を想定し簡易トイレを購入するきっかけになったのと同様に、多くの方にとって気になるポイントで“刺さった”のだと考えます。

なお細かなことですが、気になったこと等がいくつかございましたので弊方備忘録も兼ねて下記いたします既に検討されていることと史料いたしますが、ご了承ください。

- ・受付担当者は今回同様に会場近くの班長が担うことが良いと考えます。同規模ならば受付担当の人数は今年同様の4名が適当でしょう。

また当該班の訓練実施は他班より30分前に開始することも今年同様が良いと考えます。

- ・受付は「山の根」3列 「久木」2列。 「ハイランド」「市内」「市外」合わせて1列のバランスが適当と感じました。

- ・紙のアンケートを実施し現場で回収する場合は回収箱の準備が必要です。

- ・外履きを入れる袋と内履きの持参の事前案内が必要です（受付担当者は寒い日には内履き必須です）。

また玄関への掲示も必要です。

- ・今回は非常に天気にも恵まれましたが、荒天時の想定および準備が必要と感じました。

- ・マンホールトイレに関しましてとても貴重な体験でした。

特に2時間に1度ポンプで水を汲み上げる必要があることが災害時の現実を感じました。

また月例会でも説明がありましたが収容想定人数に対する個数（の少なさ）からも避難所生活の困難さをあらためて感じました。

- ・マンホールトイレに関して、説明を聞き逃したかもしれませんので説明済みでしたら申し訳ございませんが、男女を分けるべきなのか、分ける場合の比率は如何にするべきなのか、またLGBTQの対応策は如何になるのかが気になり、ある程度のルール化や啓蒙や住民間の共通認識醸成が必要と感じました。

- ・障害者用に通常の倍くらいの広さのトイレ囲いがあると良いと感じました。

- ・アルファ化米をはじめて試食させていただきました1個が1食分ならば量は十分であり、味もまったく問題ありませんでした。

自身で準備や保管方法を考えたいと思いました。

あらためて訓練に参加させていただきありがとうございます。

多くの気づきもありました。

たとえば月例会で取り上げられたポータブル電源等もこれまでは気になりませんでしたが、家電量販店で売場の前を偶然通り掛かった際に自然と目に入り立ち寄って仕様や値段を見たり、市役所で使用後の処分方法を確認したりしました。

災害は発生しないに越したことは無いですが、知識や心構え含め準備が大事と感じました。

俯瞰した意見に程遠い纏りのまったく無い文章で誠に申し訳ございません。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

12-4.避難所訓練に参加して

渡邊 力（山の根自治会 班長 受付班として参加）

私は山の根自治会の班長として受付役を拝命し、避難所訓練に参加しました。当日は多くの住民のみなさんが集まりました。受付の仕事を通して、災害が起き

た時には、まず地域の人どうしが声をかけ合い、落着いて避難場所へ向かうことが大切だとあらためて思いました。また、高齢の方や体の不自由な方には、周

困のサポートが欠かせないことも実感しました。今回の訓練では、市役所の防災課の皆様から、防災用のトイレの設置方法について、とても丁寧な説明を受けました。実際に手を動かしながら教えていただいたことで、「いざという時でも、自分たちで設置できる」という安心感が生まれました。避難生活ではトイレの問題がとても大切になるため、この説明はたいへん役に立つ内容でした。今回の訓練全体を通して感じたことは、「できることを少しずつ覚えていくことが、地域

の安全につながる」ということです。訓練に参加したことで、自分自身の防災意識も高まりました。

次回の訓練では、実際の災害を想定した避難所運営体験や、簡単な応急手当の練習などもできれば、より多くの人に役立つのではないかと思います。

防災は、一人ではできません。地域全体で協力し合い、顔の見える関係をつくることが何よりの備えになり、今回の訓練がその第一歩になったと感じています。今後も地域の防災力向上に少しでも貢献したいと思っています。

12-5. アンケート内の自由記述の項に寄せられたご意見等

男性の記述

・今日初めて訓練に参加しました。このような機会をありがとうございます。色々課題もみえました。考えていこうと思います。

・避難(判読できず)学校があるとは思っていませんでした。

・本格的な避難訓練

・病人の状況の確認

・具体的シュミレーション、連絡網、深夜時間帯の避難方法

・近隣の住民との連絡相談、連絡先の確認があると良いですね。防災用の行動リストをつくって備えたいとおもいます。

・ハザードマップを使った開設。

・トイレ対策が一番大事だと思う。

・近所の連携

・円滑な情報伝達、情報交換

・ぜひ次回も参加したいです。

・横のつながり

女性の記述

・災害の避難所となっている久木中学校は生徒さんにもマンホールトイレの使い方を深く学んでもらい、若者の力を育ててほしい。高齢化社会にもなっているので、40代50代の親達はもっと知っておいてほしいので参加をうながしたいと感じた。

・行政との連携、住民同士の連携が大切だと思いました。

・高齢者の移動

・自分でできる対策の周知

・皆の団結力

・家族に介護者がいるので避難所に行くには車いすでも無理だと思う。

・トイレも寸劇 大切ですね。考えねば!

・住民の自覚、我が事の防災

コメント(龍村): 自由記述の内容はどのコメントも重要です。今後の地域防災を進める手がかりになります。

あとかき

有益な情報を沢山頂きありがとうございました。

今回の訓練は、トイレと情報連絡を重点項目として開催されました。

大勢の避難者が集まる避難所のトイレ問題は、阪神淡路大震災以来、発生する災害の度に繰り返されている深刻な問題です。今回の訓練ではこのトイレ問題を重点項目として取り上げ、寸劇という分かりやすい形で深刻な有様を訴えました。併せて既に災害対策用として設置されているマンホールトイレを実際に使用できるようにする組立から洗浄迄の訓練を行いました。その結果は、寄稿頂いたご意見・感想の中に現れており、いずれの訓練も参加者・関係者の熱心な取り組みによる成果だと思います。

他の重点項目である情報連絡は、殆ど表には表れない形で行われました。それは、①地域での安否確認(被害状況の確認)、②その情報を集約して無線機を活用して

鈴木 為之(編集担当、住民協 理事)

本部へ連絡する、③行政が地区防災拠点を開設、地域からの情報を集約して災害対策本部へ連絡して対策につなげる、の流れと、別途④スマホを活用した地域の個別情報の行政への提供です。

その成果は7、8、9、10. に表現されており、地域においては無線連絡が確かになったこと、地区防災拠点では、災害対策本部と DX を活用した情報共有が出来た事等が挙げられます。

今回の訓練で課題が表面化したことも成果の一つとして挙げられるでしょう。例えばマンホールトイレの組み立ての難しさ等です。解決するには更なる訓練が必要です。

トイレ訓練を現実の避難所運営に反映させていくには、今後、関係組織と協働で現場に即した手順の構成、備品の整備、役割分担等々、実務的な作業を行い、発災時即応できるマニュアル作成等が必須です。

注: 下に記載の項は、本誌2月号に連載しますので、お見逃しなくご覧ください。

「12. 自由意見」の内、田中紀子校長(久木小学校) 寄稿、「10. 行政が行った地域情報発信(スマホによる発信)」の結果の集計、及び「11. 避難所で行ったアンケートの集計」